

◇ 4月の天文暦 ◇

日時	記	事
3 21	下弦	
5 19	清明 (太陽黄経 15°)	
8 1	月 最遠	
12 2	朔	
19 6	水星 外合	
14	上弦	
21 2	穀雨 (太陽黄経 30°)	
13	天王星 衝	
23 22	月 最近	
26 5	望	

☆ 天文教育施設めぐり (Ⅲ) ☆

北陸信越篇

北陸信越地方は、天体観測をするためには気象条件が悪く苦勞することが多い。観測施設として一般に公開されているものには、福井県の自然科学博物館の15cm屈

折、石川県教育センター分室の15cm屈折、富山天文台の40cm反射、新潟大学高田分校の40cm反射などがある。その他に小規模な私立天文台は石川県内にも数ヶ所がある。

プラネタリウムは、別図のように6基が設置されているが、その内の福井県児童会館のものは昭和49年11月に新設されたもので、北陸信越地方の天文教育施設はさらに一層充実された。6基のプラネタリウムの内5基は、五藤光学研究所製の中型のものでドームの直径10~18m、収容人員も100名~200名であり、福井県児童会館のものはミノルタ製で収容人員は約100名である。

石川県児童会館のプラネタリウム室は、昭和45年5月5日の開館で、やがて5周年をむかえる。直径15mのドームの中に五藤式M2型が据付けられ、定員220名、毎日4回の投影だが一般公開は、平日午後3時30分から1回、土曜日は午後1時30分と3時30分の2回、日曜日は午前11時を加えて3回である。

表日本に比べ、日本海側は気象的に恵まれていない。例えば、一年間の快晴日数は東京の61日に比べ富山では約半分の30日に過ぎない。さらに冬期においては、積雪

のため行動の自由も制限される。特に観察を主とする天文教育においては以上のことを痛切に感じる。プラネタリウムの運営や解説にも、それなりの配慮を必要としている。このような地域においては、プラネタリウムなどの天文教育施設が持つ責任はさらに大きいといえよう。天文教育施設の充実が一層望まれる。(徳光清次)

